

# 國學院大學學術情報リポジトリ

## ミエン・ヤオ族の還家願儀礼で読誦詠唱される『大歌書』の異本対照の試み

|       |                                                                                                                          |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese<br>出版者:<br>公開日: 2023-02-05<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: 廣田, 律子, Hirota, Ritsuko<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.57529/00000224">https://doi.org/10.57529/00000224</a>                                        |

# ミエン・ヤオ族の還家願儀礼で読誦詠唱される 『大歌書』の異本対照の試み

廣田律子

## はじめに

ミエン・ヤオ族は儀礼の実践において漢字文書（経典）を使用するが、種々な儀礼で読誦される韻文の経文は、七言上下句が対をなし、七言の四句をひとまとまりとして構成され、日常使用されるミエン語や漢語とは異なる音調が付され、経文によって異なるリズムと旋律をそなえた曲節を付けて発声される。韻文経文の内容は、ミエン・ヤオ族のアイデンティティーの根幹をなす神話や歴史叙事、儀礼の執行内容や祭司として守

るべき教訓、口承の記録等多岐にわたるが、単なる道教からの借用ではないミエン・ヤオ族独自の信仰知識や伝統的概念が凝縮され、対句や反復や多義の比喩表現が用いられる。儀礼の実践では経文を文面通り読誦するだけではなく、口承と書承部分を混在させたり、掛け合い問答形式で進める等極めて難解な法則が存在する。男性祭司と女性歌手とでは同時進行で詠唱を行なうが、経文や詠唱法が異なる。今まで充分になされてこなかったこの韻文経文の儀礼における読誦詠唱システムの解析を進める必要を感じている。

本論では中国湖南省藍山県のミエン・ヤオ族において儀礼執

行に欠かせない漢字文書のうち還家願儀礼（ミエン語の漢語読みではジャビヤオニョオン、ミエン語ではゾオダン）の盤王願（ビエンフンニョオン）部分で読誦詠唱される民族の起源や歴史の記された『大歌書』（トンゾンスー、通称『盤王大歌』）を扱う。この儀礼は歌堂儀礼（ガートン）とも称され、歌謡が重要とされるが、中でも韻文の経文が問答形式で歌われる等複雑な読誦詠唱が見られる「廣田 二〇一六」。今回藍山県の「盤王大歌」の個性と普遍性を明らかにするために、異なる地域において実際の歌堂儀礼で使用されている二種の経文との比較対照を試みる。

### 一．還家願儀礼の行なわれた状況

『大歌書』が読誦詠唱される還家願儀礼について概説する。藍山県所城郷幼江村の盤家（大盤）<sup>1</sup>において二〇一一年一月一六日～一月二二日（旧暦一〇月二二日～二六日）実施された還家願儀礼を具体的な事例とする。盤家の跡継ぎである盤栄富氏とその妹婿の盤明古氏、そして盤栄富氏の父の妹の夫である盤林古氏（故人）とその子で盤栄富氏にとってはいとこである盤継生氏・盤認仔氏・盤新富氏の三兄弟、計六名が受礼者となる

り祭司となる法名を得、家を継ぎ先祖の祀りを行ない、自分も祖先の法名が連ねられる家先単（図1）に法名が加えられ祀られる資格を得るために行なわれる掛三灯儀礼が中心となる。状況としては盤家では一九三〇年代に流行病によって七人が亡くなる不幸があり、その時に願を掛けたがその後ずっと願ほどこきできない状態が続いていた。二〇一一年になり条件が整い、願ほどきの儀礼を行なうことが約束され、実現された還家願儀礼では、願掛けが成就したことに對する願ほどきの儀礼、さらなる願掛けの儀礼、さらに盤王を祀る儀礼も行なわれた。この盤王を祀る儀礼「盤王願」において『大歌書』が読誦詠唱された。

還家願儀礼では三人の祭司が程行師・招兵師・還願師・賞兵師・掛灯師と称される役割を分担し、その弟子たちと共に祭祀を行なう。そのほかに供物を準備し、儀礼の段取りを取り仕切る主厨官、文書作成を担当する書表師、歌を担当する歌娘、若い男女三名ずつの三姓単郎と三姓青衣女人、はやし方の笛吹師・鑼鼓師、祭壇に線香を供える香燈師等の役割がある〔神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科 二〇一二・二三―一六六〕。

祭場は盤栄富氏宅の庁堂において行なわれ、入口を入って正

面右側に盤榮富氏の先祖を祀る常設の祭壇（家先祖壇）がある。祭儀の前半には、中央に祭壇がしつらえられ、壁には元始天尊の左右に道德天尊、靈宝天尊を配し、この三清を中央とし、左に聖主・太歳・十殿・李天師・地府・大海番・海番張趙二郎・把壇師、右に玉皇・総壇・張天師・三將軍・天府・鑒斎大王の神像の描かれた軸（神画）一七種二二軸が掛けられた。<sup>3</sup>

祭儀の進行に従って、先祖を祀る祭壇には紅紙の切り紙が掲げられたり、七星姐妹等を祀る祭壇や開天門の儀礼を行なうための祭場等が加えられた。祭儀の後半の盤王を祀る儀礼の祭壇は前半と一変し、神画は外され、正面に盤王を象徴する紅紙を切り抜いた紅羅綴が貼られ、丸ごと豚一頭が供物として並べられ、その上にちまきが置かれ、切り紙の花旗が挿された。この祭壇前で複数の祭司により、『盤王大歌』の読誦詠唱が進められた。

## 二、「盤王大歌」詠唱の意義

還家願儀礼の前半では、家々で以前立願されたことへの願ほどきが行なわれ、後半ではかつて神話世界で行なわれたとされる盤王への救いを求めた願掛けと祭祀を行なう願ほどきが再現

される。個人の家々の大願成就の願ほどきには盤王の祭祀が必須とされている。

この還家願儀礼の後半「盤王願」において『大歌書』の読誦詠唱が行なわれる。「盤王願」という大儀礼名が示すように、盤王の名に集約されているものの、実際には三廟聖王とも総称され、さらに連州唐王グループ、行平十二遊師グループ、福（伏）靈五婆グループ、福江盤王グループ、厨司五旗兵馬グループ、陽州宗祖家先グループとにグループ分けすることができる、ミエン・ヤオ族の祖先神の神統に属する神々が祭祀の対象とされている。神々は連州、行平、福（伏）靈、福江、厨司、陽州の地名を付して称されるが、これはミエン・ヤオ族が長年にわたって移住を繰り返してきた記憶の地とそこで活躍した祖先神とが接合して理解されていることを表わしている。<sup>4</sup>現地では三廟聖王の中でも盤王を特別と考え、救世主の盤王（ビエンフン）さらに龍犬盤瓠（盤護）とも一致すると考えている。

「盤王願」の最初の段階の「流楽」で読誦される「点男点女過山根」の漂洋過海神話にあるように、かつてミエン・ヤオ族が海を渡り遭難した際、三廟聖王に救いを求め願を掛け、無事に上陸できたので、約束を果たす祭祀を行なうようになったと

される。神々との契約関係は現在に至っても引き継がれ、救世主盤王に象徴される祖先神は、子孫の祈願の対象であり続け、大願成就の願ほどの祭りが続けられてきたのである〔廣田二〇一三c〕。家々で行なわれる立願は、盤王への祭祀契約とも考えられていることは明らかであり、還家願儀礼において実践される願ほどのきはこの契約履行といえる。儀礼全体を貫く重要なテーマの一つは盤王との祭祀契約と履行であると考ええる。

盤王願儀礼は、広い意味での祖先への祭祀であるといえる。神話叙事および歴史叙事である『大歌書』（いわゆる『盤王大歌』）を詠唱することで自民族の起源や出自にかかわる伝承を再確認し、祖先を讃え、綿々と継続されてきた祭祀契約とその履行の実践である祭祀が行なわれる。

祭祀においては、祭壇の供物にまで民族の漂洋過海神話が表現され、豚の頭の上に載せられた肉片は、大時化の際船の舳先で無事を祈るのに使ったハンカチを表わすとされる。さらにしっぽは船の櫂、腸は接岸のロープ、肝臓は船の碇、脂肪は帆布を表わすとされる。豚の上に積み重ねられた笹に包まれたたまきは帆を表わす葉でくるまれているとされ、その上に挿された旗は救世主盤王の好きな三六種の花を表わすとされる（図1）。神話と歴史が歌われる儀礼空間には神話世界が表現され、

自民族のアイデンティティーを五感で認識する場となる。

歌唱の実践では、歌は神の声がわたされ歌書や歌詞が引き出されて初めて詠唱されると考えられており、歌謡語を用いた大歌の詠唱自体極めて神聖な行為だといえる。祭祀性の強いとされる七言からなる詞章は、祭祀の場において歌謡語を用いた詠唱という形態を取って表出されることで、より一層呪力が発揮されると考えられていると推測する〔廣田二〇〇九〕。神の声によつて、七言の調子でミエン・ヤオ族の重要な民族知識が伝えられることに意義があるといえる。つまり効果的に歌を用いられ、祖先の移住の記憶と歴史、神とされる祖先の所業を顕在化しているといえる。大歌には民族が蓄積してきた種々な知識や精神文化が凝縮されており、詠唱では問答や反復の形式を取りつつ発露されるのである。

大歌の詠唱は多くの場面で問答形式を取り、謎掛けと謎解きが行なわれ、祖先の移住が記憶されている地から来た来訪者との遭遇が表現される。謎掛けと謎解きは極めて重要な意味をもつが、民族の知識を引き出し、民族の歴史を学習する仕掛けともなっている。さらに謎掛けにより知りたい欲求も増長され、修辭的の反復繰り返しにより民族知識の定着に繋がることにな

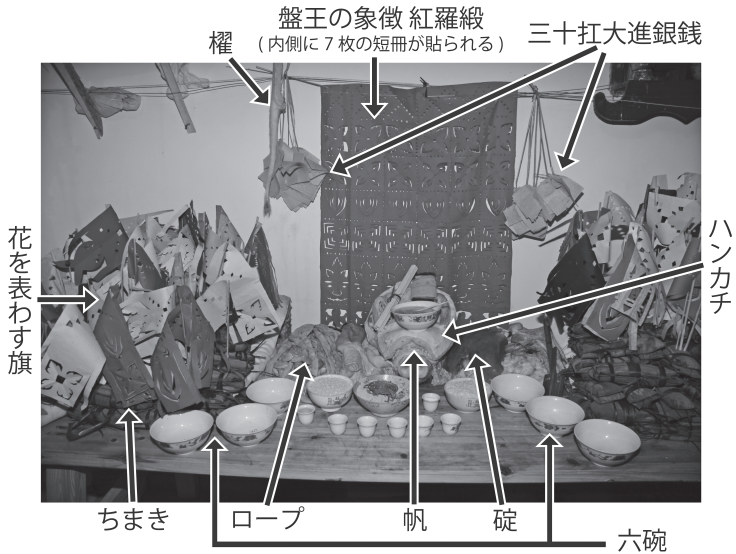


図1 盤王願の祭壇 漂洋過海神話を表わす豚の供犠

る。対句と反復は儀礼において重要な意味をもつ「山本 二〇〇六」とされるが、本稿の事例においても複数の修辭の反復が確認でき、大歌における反復は祭祀歌謡の重要な特性といえる  
〔廣田 二〇一六〕

### 三. 中国藍山県とその他の二種の「盤王大歌」の対照

「盤王大歌」を構成する段および小段を並べることは、内容を推測するためのある程度の手がかりとなるが、中身を知ることにはならない。なぜなら段の名称が段ごとに付されている経典はむしろ少なく、段の名称が中身に対応して統一して付されているというわけでもなく、中身は短いもので七言上下句四言で成立するものもあり、経典によって欠失・加筆が存在するからである。これはミエン・ヤオ族が移動分散する過程で写本を重ねていくうちに生じたと考えられるが、各地域各祭司の所蔵する「盤王大歌」の異本を対校する必要があると考える。多くのバリエーションを集め、複数の異本を比較対照させることで、プロトタイプを復元できる見通しも出てくる。

いわゆる「盤王大歌」と総称されるものの、経典には「盤王

歌」「大歌書」「盤王大路書」「大堂歌書」等と題名が付けられているものもある。

盤王・ビエンフンはミエン・ヤオ族にとつて、過海で遇難した際に命を救ってくれた救世主である。いわゆる「盤王大歌」が歌われる「歌堂」が行なわれる場合は、湖南省藍山県の場合大願成就の願ほどの際、盤王に感謝する盤王願儀礼において行なわれることから考えても、通称「盤王大歌」と表現されるのは自然なことといえる。ただし藍山県の經典の題は「大歌書」とされている。経文の内容が盤王の所業のみで成り立ってはならず、盤王は西天福江の地に生まれたとされ、鋤を作り、田を耕し、豊作をもたらし、苧麻を植え、織機を作り、布を作り、太平をもたらしたとされる生業神としての性格をもち、三廟神あるいは四廟神（連州の唐王、行平の遊師、伏靈の五婆、厨司の五旗）とされる祖先神と並んで記述されているに過ぎず、むしろ、洪水、兄弟婚、天地創造、祖先神等ミエン・ヤオ族のアイデンティティーの根幹をなす神話や歴史叙事や重層的に蓄積された種々な伝承が混在して綴られている。このことから考えても「大歌書」と題されているのは実情に合っているといえる。

祭司の趙金付氏によれば、ミエン・ヤオ族の漢字文書読誦に

は、儀礼語（サイワア・師話）と歌謡語（ズンニエンワア）の別がある。『大歌書』はズンニエンワアが用いられ、テキストを使うので読歌（ドウツォン）に属す。さらにズンニエンワアにはテキストを使わない唱歌（バアツォン）と念歌（ニエンツォン）と造歌（ツウツォン）がある。師話（サイワア）は、テキストの読誦に用いられるが、漢語とミエン語と歌謡語が混ざった読み方である。例として「意者書」などのジャンルの儀礼書を読むのに用いられる。『大歌書』は七言上下句四句からなり、現地語で上句をアンジュウ、下句はハアジュウ、四句をビエジュウ、七言節句つまり一句語をイエジュウワア、七言上下句四句一條をヤッデイズォンと称すとされる。

本稿では、編集を加えられ刊行されたものではなく、書写され現役の祭司によって実際の歌堂の場で使用されている「大歌書」を選んで比較対照を試みたい。「大歌」の歌われる歌堂の儀礼的背景を調査している中国湖南省藍山県隆源郷湘藍村祭司趙金付（法名法明）氏の使用している『大歌書』（上冊一一四頁、下冊一二〇頁）（Z-19、Z-20）と湖南省寧遠県九疑山紫荊村祭司盤旺古（法名法旺）氏所蔵本『盤王（皇）歌書』、湖南省資興市團結瑶族郷祭司所蔵本『趙財一郎大堂歌書』を並べて校異を試みたい。

藍山県匯源郷湘藍村祭司趙金付氏所蔵の經典は、二〇一一年の盤家で実施された還家願儀礼での使用にあわせ、儀礼において文書作成を担当する役割を果たしている馮榮軍氏が寧遠県の經典を書写したものとされる。

寧遠県九疑山紫荆村祭司盤旺古氏所蔵『盤王（皇）歌書』は、二〇一五年二月から翌一月にかけて藍山県犁頭郷山背村盤家で実施された還家願儀礼において祭司として賞兵師の職を務めた盤旺古氏が持参した經典である。上冊約百頁、下冊約八〇頁からなり表紙に標題はなく、上冊末に「光緒九年癸未歲新正月初七日 盤法傳騰抄盤王歌書一本永遠為記 香火開通 四方相請」とあり、下冊末に「光緒九年癸未歲正月十五日抄完盤王歌書貳本 盤法傳永遠為記 香火開通 八方顯應」とある。一八八三年の正月に盤法傳により書写された『盤王（皇）歌書』であるとわかる。

資興市團結瑶族鄉祭司所蔵『趙財一郎大堂歌書』は、二〇〇五年八月に湖南省資興市團結瑶族郷のヤオ族祭司によって執り行なわれた盤王節において歌唱された經典である。表紙に標題はなく表紙の裏に『趙財郎大堂書壹本』と記された約二二〇頁の經典で、最終頁に「上大堂歌書全本完了 乾隆四十貳年十二月廿二日 盤連智習讀記在心 日後香火開揚 何庭魁筆 習讀

記在心何庭魁」と記されている。一七七七年の一二月に盤連智と何庭魁によって書写された『大堂歌書』であるとわかる。

儀礼で詠唱されている複数の經典の文字の異同を比べ合わせることで、欠失・加筆を見いだし、地域的な差異はむしろん綿々と受け継がれ続けている部分にも注目してみたい。

以下に二種の經典の冒頭に記された段（小段）の目次を並べてみる。

# 中国藍山県匯源郷趙金付所蔵『大歌書』

1 起声唱、2 初入席、3 隔席唱、4 論娘唱、5 日出早、6 日出晏、7 月正中（日正中）、8 月正斜（日落斜）、9 月落江（日落江）、10 月落西（日落西）、11 月落流（日落過）、12 夜黄昏、13 夜深闌、14 夜深深、15 天上星、16 天上星、17 月亮亮、18 第一洪水沙曲、19 天大旱、20 天柱倒（天杵倒）、21 洪水発、22 洪水浸、23 北邊暗、24 天暗鳥、25 葫蘆叫、26 葫蘆熟、27 見大怪、28 伏羲相合、29 為婚了、30 第二三峯閑曲、31 造天地、32 置天地、33 唐王出世、34 平王出世、35 信王出世、36 第三滿段曲、37 大盤州、38 小盤州、39 第四荷葉盆曲、40 桃源洞、41 閩山学堂、42 造寺魯班、43 花巧、44 鄧古、45 何物、46 第五南花子曲、47 彭祖、48 郎老、49 第六飛江南、50 木倒地、51 船到水、52 神去、53 第七

# 梅花大盃

39 第四荷葉盃曲までを上冊、以降は下冊の内容となる。

丸括弧内は筆者の校訂。以後同様。

## 寧遠県九疑山紫荆村盤旺古所藏『盤王（皇）歌書』

1 起聲唱、2 起歌唱、3 初入席、4 論娘唱、5 天星上、6 月初早、7 月正中、8 月正斜、9 月落西、10 月落江、11 夜黄昏、12 夜深深、13 大星上、14 月亮亮、15 弟（第）一洪水沙、16 天大早（旱）、17 見大怪、18 天地動、19 天柱倒、20 葫蘆熟、21 洪水發、22 伏羲相甲、23 為昏（婚）了、24 弟（第）二相逢閑曲、25 ●天地、26 高王種竹、27 劉王種木、28 盤王出世、29 石崇富貴、30 流羅花巧、31 弟（第）三滿段曲、32 唐王出世、33 大盤州、34 小盤州、35 弟（第）四荷葉盃曲、36 桃源、37 閩山學堂、38 魯班造寺、39 鄧古、40 何物、41 弟（第）五南花子曲、42 大荷（何）物、43 彭祖、44 郎老、45 弟（第）六拋江南曲、46 欄散歌頭欄散歌尾、47 弟（第）七梅花酒碗

●は不明箇所、以降同様。

資興市祭司所藏の乾隆四二年（一七七七年）の銘がある手抄本『趙財一郎大堂歌書』には、目次は付されていないので段を

代表する語句を抽出して構成を示す。1 起聲唱、2 論娘唱、3

●入席、4 隔席唱、5 分●唱、6 平平唱、7 日頭出、8 月中、9 月斜斜、10 月落西、11 月落江、12 日頭過江、13 夜深蘭、14 夜深深、15 夜黄昏、16 黄昏、17 月亮、18 第一紅系紗曲、19 一片鳥、20 二十八後生、21 第二園歌曲、22 天大旱、23 見怪歌、24 天柱倒、25 天暗鳥、26 北邊暗、27 洪水發、28 雷落地、29 葫蘆歌、30 大州出、31 葫蘆熟、32 洪水發、33 洪水浸、34 為婚了、35 第二園三逢閑曲、36 造得地、37 造得天、38 置天地、39 仰歌曲、40 深山竹木、41 唐王出世、42 信王出世、43 盤王出世、44 白涼扇、45 坦傘、46 盤王歌曲、47 盤王起計、48 石崇富貴、49 琵琶、50 魯班、51 第三園滿段曲、52 出嫁早、53 秀才、54 師人、55 十二遊師、56 烏雲上、57 大州、58 英台、59 梁山、60 大缸、61 第四段荷葉歌曲、62 桃源洞、63 閩山、64 起造歌曲、65 造寺魯班、66 四字、67 鄧古歌、68 遭小何物歌、69 第五段南花曲、70 唱何物歌、71 唱古人歌、72 郎老了、73 唱彭祖歌、74 唱第六段飛江南曲、75 唱送聖歌、76 缸成了、77 缸到水、78 送神去、79 第七段鴨六曲で構成されている。

二種の經典の冒頭に記された目次を見ると、藍山県匯源鄉本趙金付氏所藏『大歌書』と寧遠県九疑山紫荆村盤旺古氏所藏『盤王（皇）歌書』両者ともに經文の一部分を段の題名にして

いる場合が多く見える。ただ題名に取り上げる部分や題名を付ける頻度が異なる。段の題名は経文の文面と一致していない場合もある。さらに経文の配置順が經典により異なる場合も見える。由に両者の経文を最初から最後まで並べて対照比較させる必要がある。

漢字文書は、限られたスペースに漢字が連ねられており、一行を左右に分ける分け字で記されることも多く、祭司は詠唱される順番を頭にしっかり入れた上詠唱している。実際の詠唱法は極めて複雑であり、経文の文面を一見するだけでは詠唱法まで理解することはできない。さらに『大歌書』の漢字経文がどのような音調と節が付され詠唱されるかが重要となる。しかしそれぞれのような音調が付されてどのような曲節が付されているのかは、ここでは扱わない。經典の文字のみを扱うこととする。また經典全体ではなく、藍山県匯源郷の經典(Z-19)の目次にある小段の31造天地から35信王出世までのみを対校するにとどめる。この部分を選んだ理由はヤオ族の祖先神にかかわる重要な部分であるからである。

# 説明

三種の異本の対照表の対象文献は中国藍山県匯源郷趙金付所蔵『大歌書』。

対校文献の上段は遼寧県九疑山紫荆村盤旺古所蔵『盤王歌書』。

対校文献の下段は資興市祭司所蔵『趙財一郎大堂書』。

現物と同じ箇所で行改行する。

行頭に連番をつける。

題目には連番をつけない。

題目が出現するごとに連番を1に戻す。

太い下線は対校文献の上段と相違のある箇所を示している。

細い下線は対校文献の下段と相違のある箇所を示している。

二重線は対校文献の上段、下段と相違のある箇所を示している。

対校文献同士の間には注目していない。

括弧内の文字が同じ場合、相違はないものとする。

同じ字数の分け字同士の対照は、相違のある部分だけ下線を引く。

分け字と普通字の対照は、分け字全体と普通字に下線を引く。分け字内に普通字と同位置で同文字があっても下線を引く。

分け字のある句を含んだ行(主に句全体が分け字のもの)に対応する行が複数の行に分かれている場合、分け字を展開した状態で対

校し、相違のある部分に下線を引く。分け字の展開については後述する。

対校文献の段にある表は上から連番、上句、連番、下句を表わしており、それぞれ対象文献の各項目に対応している。下句の連番は上句の連番と同じ場合省略する。対応関係を優先するため上句が下句のマスに表記されることやその逆が生じることがある。その場合連番に上下を示す。例えば、連番に上36とあれば連番36の行の上句の意味。

同様に下37とあれば連番37の行の下句の意味である。

「…」は省略を表わす。一つの行に該当する行が複数ある場合、行の中から該当する部分だけを抜き出し、それ以外の部分を「…」で略す。上下の別、行番号が同じものからそれぞれ「…」を除いて合成すればもとの形に戻る。例えば、連番に下37、続くマスに「老了裡（禮）拜敬…」とあり、付近のマスの連番に下37、続くマスに「…焼香」とあれば、連番37の下句全体は「老了裡（禮）拜敬焼香」である。

「〈」「〉」は対象文献には存在しないが対校文献に存在する句の切れ目（空白や改行）の箇所を表わし、対校文献の段の上句下句の別はこれを基準にする。「〈」は対校文献の上段、「〉」は対校文献の下段の切れ目を表わしている。

対象文献の一行に三つ以上区切りがある、もしくは「〈」「〉」によって三つ以上の区切りが生じた場合、対校文献の段は次行の上段が三区切り目、その下が四区切り目というように以降増えていく。

対象文献のナシは該当する行が存在しないことを表わす。

対校文献のナシは該当する句が存在しないことを表わす。

分け字は／で示す。／の位置から句頭もしくは句末までの文字数で少ない方を分け字数とし、／を中心とした前後の分け字数と同じ数の文字が分け字となる。例えばABCDEF G／Hと記してあれば、分け字数は一でG／Hが分け字である。同様にABCDEF G／HIと記してあれば、分け字数は二でFG／HIが分け字、ABC／DEFGHIJと記してあれば、分け字数は三でABC／DEFGが分け字である。この規則にあてはまらないものは二でくくり、分け字を示す。例えばABCD E／F GHとあればE／Fが分け字、ABCDEF G／HIとあればG／HIが分け字である。

分け字の展開は、分け字以外の部分を二度繰り返し、分け字の部分は一度目の繰り返しには／を中心にした上（左）の字を用い、二度目には下（右）の字を用いる。例えばABCDEF G／Hの展開は、ABCDEF G、ABCDEF Hとなる。

31 造天地から35 信王出世

|    |         |            |
|----|---------|------------|
| 一  | 第一平王造得地 | 第二高王造得天    |
|    | ナシ      | ナシ         |
| 二  | 第三媛王造得火 | 第四盤王造得衫    |
|    | ナシ      | ナシ         |
| 三  | 第一平王造得地 | 第二高王造得天    |
|    | 高王造天蓋不過 | 立轉地主蓋過天    |
| 四  | 高王造天蓋不過 | 立轉地主蓋過天    |
|    | ナシ      | ナシ         |
| 五  | 何物量天不量地 | 何物量地不量人    |
|    | 何物量天天星宿 | 何物量地地中眠    |
| 六  | 何物量天天星宿 | 何物量地地中眠    |
|    | 七星量天不量地 | 田螺量地不量天    |
| 七  | 何物量天天星宿 | 何物量地地中眠    |
|    | 地下量量無萬活 | 天上量量無萬高    |
| 八  | 地下量量無萬活 | 天上量量無萬高    |
|    | 莫怪歌詞相說報 | 烏龜背上也無毛    |
| 九  | 莫怪歌詞相說報 | 如何得見月出生    |
|    | 平地塞河成大海 | 龍王出世伴何生    |
| 一〇 | 平地塞河成大海 | 龍王出世伴何生    |
|    | 日頭出世照下海 | 出世日頭兩個無明   |
| 一一 | 日頭出世照下海 | 出世日頭兩個無明   |
|    | 初造日頭十二個 | 兩個有(歳)身帶珠針 |
| 一二 | 初造日頭十二個 | 兩個有(歳)身帶珠針 |
|    | 十個打落銅羅國 | 十個打落銅羅國    |

|    |             |             |             |
|----|-------------|-------------|-------------|
| 18 | 十個打落同爐國     | 置天地一段       | 弟(第一)一平王造得地 |
| 17 | 初造日頭十二個     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 16 | 日頭出世照天下     | 弟(第一)三竹王造得火 | 弟(第一)三竹王造得火 |
| 15 | 平地塞河成大海     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 14 | 莫怪歌詞相說報     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 13 | 地下量量無萬活     | 弟(第一)三媛王造得火 | 弟(第一)三媛王造得火 |
| 12 | 七星量天天星宿     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 11 | 七星量天不量地     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 10 | 何物量天天星宿     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 9  | 何物量天不量地     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 8  | 高王造天蓋不過     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 7  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 6  | 高王造天蓋不過     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 5  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 4  | 弟(第一)三媛王造得火 | 弟(第一)三媛王造得火 | 弟(第一)三媛王造得火 |
| 3  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 2  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 1  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |

|    |             |             |             |
|----|-------------|-------------|-------------|
| 12 | 十個打落同牢國     | 又唱平王歌       | 弟(第一)一平王造得地 |
| 11 | 初造日頭十二個     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 10 | 日頭出世照下地     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 9  | 平地塞河成大海     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 8  | 莫怪歌詞相說報     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 7  | 地下量量無萬活     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 6  | 七星量天天星宿     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 5  | 何物量天天星宿     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 4  | 何物量天不量地     | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 3  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 2  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |
| 1  | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 | 弟(第一)一平王造得地 |

三〇 置得田塘平田凡人作

平王造地置田塘平田

|     |         |  |  |              |                   |              |         |         |  |  |               |                 |                 |                 |         |                |                |         |  |  |
|-----|---------|--|--|--------------|-------------------|--------------|---------|---------|--|--|---------------|-----------------|-----------------|-----------------|---------|----------------|----------------|---------|--|--|
| 32  |         |  |  | 31           | 30                | 29           | 28      | 27      |  |  | 26            | 25              | 24              | 23              | 21      | 22             | 20             | 19      |  |  |
| 凡人作 | 置得平(塘田) |  |  | 高王造天置天地      | 向水口<br>置得山(原苗)    | 高王造天置天地      | 置得青山無萬闌 | 高王造天置天地 |  |  | 龍淮有賢倒榕樹       | 高王造天更立地         | 龍推有賢倒榕樹         | 高王造天置天地         | 高王造天置天地 | 天子在高身落細        | 一寶<br>置得日頭弟(第) | 高王造天置天地 |  |  |
| 刊   | 又置牯牛無萬雙 |  |  | 田<br>平王造地置平塘 | 萬原名<br>又置水原(源)(無) | 苗<br>平王造地置山原 | 又置江河無萬溪 | 平王造地置青山 |  |  | 七星無道月邊行<br>身邊 | 赤王立地月初生<br>元(圓) | 轉面番歸樹又生<br>圖(圓) | 赤王立地月初生<br>圖(圓) | 平王造地置州廷 | 二名<br>明日在高弟(第) | 又置七星弟(第)<br>二名 | 平王造地置地廷 |  |  |

|          |                  |                 |            |         |         |         |         |   |   |            |           |          |         |         |          |         |         |         |         |
|----------|------------------|-----------------|------------|---------|---------|---------|---------|---|---|------------|-----------|----------|---------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 30       | 29               | 28              | 27         | 26      | 25      | 24      | 23      |   |   | 22         | 21        | 20       | 19      | 17      | 18       | 16      | 15      | 14      | 13      |
| 平田(一凡人作) | 置得(田唐)(塘)高王造天置天地 | (塘)平田(一凡人作)     | 至高王造天至(置)地 | 立得山原向水口 | 高王造天置天地 | 置得青山無萬闢 | 高王造天置天地 | ナ | ナ | 龍廣有賢月襟座(坐) | 高王造天更立地   | 龍廣有賢倒欄杆  | 高王造天更立地 | 高王造天置天地 | 天子在高身落細  | 置得日頭第一寶 | 高王造天置天地 | 十個打落同年國 | 初至日頭十二個 |
| 雙        | 又置牯牛無萬千          | 平王造地至(置)田唐(塘)平田 | 又置早木無萬倉    | 名       | 又置水原無萬原 | 青苗      | 平王造地立山原 | 明 | ナ | 七星不到月身行)   | 赤王立地月初(生) | 短轉番番杆又生) | 赤王      | 平王造地置天廷 | 明月在高第二一名 | 又置七星第二名 | 班       | 明       | 出世日頭兩個賢 |

|    |             |               |
|----|-------------|---------------|
| 三  | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 三  | 置得江河無萬活     | 又置〔春車江魚〕無萬多   |
| 三  | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 三  | 置得江河無萬活闊    | 又置客〔人船〕無萬多    |
| 三  | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 三  | 天子劉三造得千條路歌曲 | 劉三唱魯班造得萬條歌象牙梳 |
| 三  | 高王造天置天地     | 平王樸木造江灘心      |
| ナシ | ナシ          |               |
| ナシ | ナシ          |               |
| 三  | 水底龍王為學院     | 龍王塞水盡知安       |
| 三  | 水底龍王為學院     | 龍王塞水盡知安傳古到如今  |
| 四〇 | 高王造天置天地     | 〔互〕王立地置羅更     |
| 四  | 置得羅更巡官轉     | 又置龍船水面行       |
| 四  | 高王造天置天地     | 平王造地置州平庭      |
| ナシ | ナシ          |               |
| ナシ | ナシ          |               |
| 四三 | 置得州〔平〕庭相公坐  | 又置州門對縣門城      |
| 四  | 高王造天置天地     | 平王造地置州平通      |
| 四五 | 置得州〔門〕通相公坐  | 又置筆頭手裡行籠      |
| 四  | 高王造天置天地     | 平王造地置州庭場      |

|    |             |               |
|----|-------------|---------------|
| 49 | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 48 | 置得州〔門〕通相公坐  | 又置〔石頭里鯉〕魚一無萬多 |
| 47 | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 46 | 置得州〔廷平〕相公坐  | 又置客〔人船〕萬多     |
| 45 | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 44 | 置得羅更巡官使     | 劉三唱魯班造得萬條歌象牙梳 |
| 43 | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 42 | 置得羅更〔唐〕巡天轉  | 龍王塞水盡知安傳古到如今  |
| 41 | 高王造天置天地     | 平王造地置羅更〔唐〕    |
| 40 | 水底龍王為學院     | 龍王塞水盡知安傳古到如今  |
| ナシ | ナシ          | ナシ            |
| ナシ | ナシ          | ナシ            |
| ナシ | ナシ          | ナシ            |
| 39 | 高王造天置天地     | 平王樸木造江灘心      |
| 38 | 天子劉三造得千條路歌曲 | 劉三唱魯班造得萬條歌象牙梳 |
| 37 | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 36 | 置得江〔河邊〕無萬活  | 又置客〔人船〕萬多     |
| 35 | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |
| 34 | 置得江河無萬活     | 又置〔石頭里鯉〕魚一無萬多 |
| 33 | 高王造天置天地     | 平王造地置江河       |

|    |              |                  |
|----|--------------|------------------|
| 47 | 高王造天至〔置〕天地   | 平王造地至〔置〕州場       |
| 46 | 置得州門相公坐      | 又至〔置〕筆頭手裡龍路通到京   |
| 45 | 高王造天置天地      | 平王造地置州門          |
| 44 | 置得州〔廷平〕相公坐   | 又置州門對縣門筆頭手裡龍路通到京 |
| ナシ | ナシ           | ナシ               |
| ナシ | ナシ           | ナシ               |
| 43 | 高王造天置天地      | 平王造地置州庭          |
| 42 | 置得羅更巡官使州平相公坐 | 龍王塞水盡知安傳古到如今     |
| 41 | 高王造天置天地      | 平王造地至〔置〕羅庚州平     |
| 40 | 水底龍王為學院      | 龍王塞水盡知安傳古到如今     |
| ナシ | ナシ           | ナシ               |
| ナシ | ナシ           | ナシ               |
| 39 | 高王造天至〔置〕天地   | 平王樸木造江灘心         |
| 38 | 劉三造得千條路      | 劉三唱魯班造得萬條歌象牙梳    |
| 37 | 高王造天置天地      | 平王造地至〔置〕江河       |
| 36 | 天子劉三造得千條路    | 劉三唱魯班造得萬條歌象牙梳    |
| 35 | 高王造天置天地      | 平王造地置江河          |
| 34 | 至〔置〕得江河無萬活   | 又至〔置〕客〔人〕一無萬多    |
| 33 | 高王造天置天地      | 平王造地至〔置〕江河       |
| 32 | 至〔置〕得江河無萬活   | 又至〔置〕筆頭手裡龍路通到京   |
| 31 | 高王造天置天地      | 平王造地至〔置〕江河       |

ナシ  
ナシ  
四七 置得州〔庭場〕相公坐  
八 開路深山過曲凸凹  
九 龍王水底寬遊坐  
〇 水面光光魚喫冷  
一 莫怪歌詞相說報  
二 石頭都縁是魚屋補  
三 蝦公是郎親人舊  
四 白鶴灘頭白  
五 鴨公頭帶青羅帽  
唐王種竹  
一 深山竹木劉王種  
二 南安水族是龍較  
三 深山竹木劉王種  
四 珍珠糯米凡人寶  
五 深山竹木劉王種  
六 珍珠糯米凡人寶  
人置路司通到京郷  
龍王水底坐寬遊生  
望見月頭滿地流行  
水底光光魚喫田  
便是金花石上開邊  
黃砂細石是魚補屋  
蝦邑是郎親大姑兄  
鯉魚水底喫黃涼沙  
鶏公頭帶石榴花  
深潭曲凹是龍開  
水底龍門一入後日夜開  
蒼邊楊柳聖人栽  
伏前書卷僧家開篇  
巷邊楊柳聖人爭栽  
香爐水碗僧家行添

[illegible]

|    |            |              |              |   |   |
|----|------------|--------------|--------------|---|---|
| 48 | 又歌曲起       | 置得州場無萬箇      | 又置路司通到郷      | ナ | ナ |
| 1  | 道路深山過曲垣    | 龍王水底作宵遊      | 龍王水底作宵遊      | ナ | ナ |
| 2  | 龍王水底宵遊坐    | 望見日頭滿地流      | 望見日頭滿地流      | ナ | ナ |
| 7  | 小底光光魚喫冷    | 水面光光魚喫吞      | 水面光光魚喫吞      | ナ | ナ |
| 8  | 莫怪歌詞相說報    | 正是金花石上開      | 正是金花石上開      | ナ | ナ |
| 3  | 深澤爲祿是魚屋    | 黃沙細石是魚捕      | 黃沙細石是魚捕      | ナ | ナ |
| 4  | 蝦蟆是郎親大舊    | 蝦蟆是郎親大姑      | 蝦蟆是郎親大姑      | ナ | ナ |
| 5  | 白鶴灘頭喫白水    | 鯉魚水底撲橫沙      | 鯉魚水底撲橫沙      | ナ | ナ |
| 6  | 鴨公頭戴青羅帽    | 鴨公頭戴石榴花      | 鴨公頭戴石榴花      | ナ | ナ |
| 9  | 深山竹木蓄(留)王種 | 深澤曲垣(塙)是龍門   | 深澤曲垣(塙)是龍門   | ナ | ナ |
| 10 | 南安水淵是龍較    | 水底龍門(人後)日夜一開 | 水底龍門(人後)日夜一開 | ナ | ナ |
| 11 | 深山竹木劉王種    | 掛邊楊柳聖人栽      | 掛邊楊柳聖人栽      | ナ | ナ |
| 12 | 珍珠糯米凡人賣    | 佛前書卷僧家門      | 佛前書卷僧家門      | ナ | ナ |
| 13 | 深山竹木劉王種    | 巷邊楊柳聖人行      | 巷邊楊柳聖人行      | ナ | ナ |
| 14 | 珍珠糯米凡人賣    | 香爐一碗僧家壇      | 香爐一碗僧家壇      | ナ | ナ |

- 七 深山竹木劉王種  
八 州庭花發聖人摘  
九 深山竹木劉王種  
一〇 那岸平田凡人作  
二 深山竹木劉王種  
三 聖人種得太陰木  
三 深山竹木劉王種  
四 聖人栽得太陰木  
五 白鴿杵上〔勸〕叫〔姑〕姑  
六 鯉魚也為麻〔姑〕田〔死〕  
ナシ  
ナシ  
ナシ
- 七 深山竹木劉王種  
八 州庭花發聖人摘  
九 深山竹木劉王種  
一〇 抄頭便看龍為月  
二 月亮光光照下海  
三 眼王執鏡開腦照  
三 月亮光光照下海  
二四 眼王執鏡開腦照
- 七 命著劉王改換天堂  
八 世代兒孫接少年郎  
九 胡蘆生上未為真情  
一〇 不見唐王現出身廳  
二 照見唐王書案頭流  
三 照見唐王出世愁州  
三 照見唐王書案龍出世連  
二四 照見唐王出世中邊
- 七 巷邊楊柳聖人栽爭  
八 四門八路聖人開行  
九 井邊容杵聖人栽連  
一〇 枯牛鹿馬聖人財〔錢〕  
二 井邊容杵聖人連爭  
三 正是羅下地財錢  
三 井邊容杵聖人爭連  
四 拋上太陽隨月行千萬年  
五 鯉魚〔著〕釣為麻〔姑〕田  
六 也為當初到讀書經

|    |          |   |          |
|----|----------|---|----------|
| 67 | 深山竹木劉王種  | 爭 | 巷邊楊柳聖人栽  |
| 68 | 州庭花發聖人摘  | 行 | 四門八路聖人開  |
| 69 | 深山竹木劉王種  | 連 | 井邊容杵聖人栽  |
| 70 | 南安坪田凡人作  | 天 | 枯牛鹿馬聖人財  |
| 71 | 深山竹木劉王種  | 連 | 井邊容杵聖人栽  |
| 72 | 聖人種得太陰木  | 連 | 正是羅離地下栽  |
| 73 | 深山竹木劉王種  | 連 | 井邊容杵聖人爭  |
| 74 | 聖人種得太陰木  | 連 | 拋上太陽隨月行  |
| 75 | 白鴿杵上勸鳥鳥  | 英 | 鯉魚著釣為麻喉  |
| 76 | 鯉魚也為吞〔喉〕 | 英 | 也為當初到讀書  |
| 77 | 洪爺出世著寅年  | 命 | 著劉王解換堂   |
| 78 | 命著劉王解換後  | 天 | 世代兒孫接少年郎 |
| 79 | 洪爺出世無天地  | 年 | 胡蘆生上未為真  |
| 80 | 抄頭望見龍圍月  | 廊 | 不見唐王現出身  |
| 81 | 月亮光光照下海  | 邊 | 照見唐王出世愁  |
| 82 | 眼王執鏡開〔攔〕 | 賢 | 照見唐王書案頭  |
| 83 | 月亮光光照下海  | 龍 | 照見唐王書案流  |
| 84 | 眼王執鏡開〔攔〕 | 中 | 照見唐王出世州  |

|    |            |    |            |
|----|------------|----|------------|
| 15 | 深山竹木劉王種    | 爭  | 巷邊楊柳聖人栽    |
| 16 | 州庭花發聖人摘    | 行  | 四門八路聖人開    |
| 17 | 深山竹木劉王種    | 連  | 井邊容〔杵〕聖人連栽 |
| 18 | 南安坪田凡人作    | 財  | 枯牛鹿馬聖人財    |
| 19 | 深山竹木劉王種    | 連  | 井邊容杵聖人栽    |
| 20 | 聖人種得太〔太〕陰木 | 陰  | 正是田離地下栽    |
| 21 | 深山竹木劉王種    | 連  | 井邊楊柳聖人連    |
| 22 | 聖人種得太陰木    | 萬  | 拋上太陽伴月行    |
| 23 | 鴉鴿樹上叫喉喉    | 茶  | 鯉魚著〔著〕藥為   |
| 24 | 鯉魚也為茶枯死    | 也  | 為當初到讀書     |
| 25 | 鴉鴿也為叫兄兄    | 麻  | 枯〔著〕釣為     |
| 26 | 鯉魚也為麻枯死    | 也  | 為當初到讀書     |
| 27 | 洪爺出世是寅年    | 命  | 著〔著〕劉王改    |
| 28 | 命著〔著〕劉王蓋   | 郎  | 世代兒孫接聖言    |
| 29 | 洪爺出世無天地    | 成  | 滿蘆生上未為真    |
| 30 | 抄頭望見龍圍月    | 廊  | 不見唐王現出身    |
| 31 | 月亮光光照下海    | 連  | 照見龍王書案龍    |
| 32 | 元王執鏡開〔攔〕   | 邊  | 照見唐王出世中    |
| ナシ |            | ナシ |            |
| ナシ |            | ナシ |            |

五 出世唐王先出世  
 二六 抄頭望見龍為月  
 二七 出世唐王先出世  
 八 唐王出世連(州村)廟  
 二九 唐王出世先出世  
 三〇 上村燒香連州廟  
 三一 出世信王先出世  
 三二 信王出世衣(著)無  
 三三 出世信王先出世  
 三四 信王出世無衣(著)  
 三五 出世盤王先出世  
 三六 盤王頭帶平天帽  
 三七 盤王出世先出世  
 ナシ  
 ナシ  
 ナシ  
 三八 盤王出世在曲江(西天)  
 三九 盤王出世愛相刻  
 四〇 盤王生得三年半  
 釋迦背上出石螺(紅蓮)

唐王出世未情真(成親)  
 不見唐王現出身(廳)  
 出世唐王在連州(村)  
 手把金牌雙淚流(月樣圓)  
 唐王出世百般齊(在連前)  
 得見唐王坐廟合(心)  
 信王出世不有娘(人)  
 路逢金骨拗遮身  
 信王出世不遮(藏羞)  
 路逢金骨拗遮(秋)  
 出世盤王在福江(西天)  
 帽帶肖肖朝上天  
 盤王出世在曲江(西天)

兩個金童在兩行(邊)  
 釋迦相刻在江河(江邊)  
 釋迦背上出石螺(紅蓮)

|   |   |                      |               |                        |         |   |               |                        |               |                      |               |               |               |                     |               |                        |               |   |   |
|---|---|----------------------|---------------|------------------------|---------|---|---------------|------------------------|---------------|----------------------|---------------|---------------|---------------|---------------------|---------------|------------------------|---------------|---|---|
| す | す | 98<br>盤王座(坐)得三<br>年半 | 97<br>相睹盤王愛相睹 | 96<br>盤王出世(福江)<br>西天一廟 | す       |   | 95<br>出世盤王先出世 | 94<br>盤王出世(福江)<br>西天一廟 | 93<br>出世盤王先出世 | 92<br>信王出世無衣者<br>(著) | 91<br>出世信王先出世 | 90<br>信王出世無衣著 | 89<br>出世信王先出世 | 88<br>僧家燒香連州廟       | 87<br>出世唐王先出世 | 86<br>唐王出世連(連)<br>州廟   | 85<br>出世唐王先出世 | す | す |
| す | す | 紅蓮(連)                | 釋迦背上出田螺       | 邊<br>釋迦相睹在江河           | 兩個金童在兩行 | す | 盤王出世在福江<br>西天 | 天<br>帽帶捎摘朝上江           | 盤王出世在福江<br>西天 | 盜<br>路逢今骨撈遮藏         | 盜<br>信王出世不遮藏  | 身<br>路逢金骨撈遮源  | 人<br>信王出世不有娘  | 廟<br>得見唐王座(坐)<br>剎心 | 新<br>唐王出世百般齊  | 手<br>月標元(圓)<br>把令牌雙淚一流 | 村<br>唐王出世在連州  | す | す |

[illegible]

四一 高台望見齊眉鏡  
四二 盤王生得一對女  
四三 玉女梳頭不亂髮  
四四 玉女梳頭是佛樣  
四五 要娘買笠娘不買  
四六 得娘十已成郎我  
四七 白涼扇  
四八 得娘十已成郎我  
四九 擔傘得擔傘  
五〇 要娘擔傘得黃油  
五一 擔傘出門傘  
五二 擔傘出門風打破  
五三 擔傘過橋來照影  
五四 解衫搭在橋樑上

一 起計盤王先起計  
二 黃龍又定五雷熟  
ナシ  
ナシ  
ナシ

盤王起計  
龍兒粉在村  
一年四季出行遊  
聖女梳頭髮亂飛絲  
隨著盤王雙下歸時  
要娘買傘說無錢油  
芋麻遮頭也過年秋  
反復兩邊都是花金  
反復兩邊都是家親  
要娘擔傘隨傘開陰  
誰知傘底有秀才官人  
搖扇出門風對風前對前  
空擔傘骨捧門風前  
橋高水浪影無真涼  
生死愛連橋底人娘

盤王起計立春名  
專望五雷轉一聲

|      |         |         |         |
|------|---------|---------|---------|
| 99   | 高臺望見齊眉鏡 | 村       | 龍兒花粉在江州 |
| 100  | 盤王原生一對女 | 村       | 一年四季出行刈 |
| 101  | 玉女梳頭不亂髮 | 系       | 聖女梳頭不亂飛 |
| 102  | 玉女梳頭是伏樣 | 系       | 玉女梳頭不亂飛 |
| 103  | 要娘買笠娘不買 | 系       | 要娘買傘說無錢 |
| 104  | 得娘習已成郎首 | 系       | 等帶遮頭也過年 |
| 105  | 白涼扇     | 金       | 反復兩邊都是花 |
| 106  | 得娘習已成郎首 | 金       | 反復兩邊都是花 |
| 107  | 擔傘得擔傘   | 陰       | 要娘共擔細傘開 |
| 108  | 要娘共擔光油傘 | 官人      | 誰知傘底有秀才 |
| 109  | 擔傘出門傘對傘 | 搖扇      | 出門      |
| 110  | 擔傘出門風打破 | 前風      | 對前風     |
| 111  | 擔傘過橋來照影 | 橋高水浪影無真 | 生死愛連橋底人 |
| 112  | 解衫搭在橋樑上 | 娘       |         |
| 盤王出世 |         |         |         |
| 1    | 起計盤王先起計 | 盤王起計立春明 |         |
| 2    | 龍王又定五雷熟 | 專望五雷轉一聲 |         |
| ナシ   | ナシ      | 守到春間來認親 |         |
| ナシ   | ナシ      | ナシ      |         |

|        |         |         |         |
|--------|---------|---------|---------|
| 51     | 高台望見齊眉鏡 | 村       | 龍兒花粉在江州 |
| 52     | 盤王原生一對女 | 系       | 聖女梳頭不亂飛 |
| 53     | 玉女梳頭不亂髮 | 系       | 玉女梳頭不亂飛 |
| 54     | 玉女梳頭是伏樣 | 系       | 玉女梳頭不亂飛 |
| 55     | 要娘買笠娘不買 | 系       | 要娘買傘說無錢 |
| 56     | 得娘習已成郎我 | 系       | 芋麻遮頭也過年 |
| 57     | 白涼扇     | 番       | 反復兩邊都是花 |
| 58     | 得娘十已成郎我 | 番       | 反復兩邊都是家 |
| 59     | 擔傘得擔傘   | 連       | 要娘共擔細傘開 |
| 60     | 要娘共擔黃油傘 | 秀才      | 官人      |
| 61     | 擔傘出門傘對傘 | 搖扇      | 出門      |
| 62     | 擔傘出門風打破 | 前風      | 對前風     |
| 63     | 擔傘過橋來照影 | 橋高水浪影無真 | 生死愛連橋底人 |
| 64     | 解衫搭在橋樑上 | 娘       |         |
| 仰盤王歌曲起 |         |         |         |
| 1      | 起計盤王先起計 | 盤王起計立春明 |         |
| 2      | 黃龍又定五雷熟 | 專望五雷轉一聲 |         |
| 3      | 起計盤王先起計 | 盤王起計立春明 |         |
| 4      | 鯉魚水底偷歡喜 | 名       | 專望五雷轉一聲 |

|    |                                   |                                     |
|----|-----------------------------------|-------------------------------------|
| 三  | 起計盤王先起計                           | 盤王起計開犁頭鉈                            |
| 四  | 鼠王過海偷不種                           | 黃龍含水吟不 <del>幾</del> 花               |
| 五  | 起計盤王先起計                           | 盤王起計 <del>開</del> 犁梗鉈               |
| 六  | 起計盤王先起計                           | 屋底大塘谷報生芽                            |
| 七  | 起計盤王先起計                           | 盤王起計立春名哀                            |
| 八  | 立得春一名哀都足了                         | 屋背秧 <del>見</del> 段段青齊               |
| 九  | 起計盤王先起計                           | 盤王起計種芋麻 <del>絲</del>                |
| 一〇 | 種得芋一麻 <del>絲</del> 兒孫續            | 兒孫世代繡羅花衣                            |
| 二  | 起計盤王先起計                           | 初發芋一麻油一葉大球花                         |
| 三  | 芋麻籽細不成芋                           | 蕉麻籽細便成細羅                            |
| 四  | 起計盤王先起計                           | 盤王起計 <del>開</del> 高加機               |
| 五  | 開得高一加機一織細布                        | 布面又凋李柳花 <del>絲</del>                |
| 六  | 著 <del>著</del> 盤王先 <del>著</del> 著 | 著 <del>著</del> 羅唐王先 <del>著</del> 焦羅 |
| 七  | 盤王著 <del>著</del> 芋世也好             | 唐王著 <del>著</del> 焦羅一更請條婁羅           |
| 八  | 盤古留得有七格                           | 羅衣手中無本錢                             |
| 九  | 石崇富貴當天下                           | 獨自 <del>歲</del> 寒齊路邊                |
| 一〇 | 石崇鐵煉金鷄卵                           | 金鷄鐵煉石崇身                             |
| 一一 | 石崇接得三千客                           | 羅衣手中無本才                             |
| 一二 | 人生一世莫爭強                           | 死人黃泉共路行                             |
| 一三 | 石崇富貴當天下                           | 有錢無路買長生                             |

|    |            |                       |
|----|------------|-----------------------|
| 20 | 石崇富貴登天下    | 有錢無路買長生               |
| 19 | 人生一世莫爭強    | 死人黃泉同路行               |
| 18 | 石崇接得三千客    | 羅任手中無本錢               |
| 17 | 石崇蹄亂金鷄卵    | 金鷄蹄亂石崇身               |
| 16 | 石崇富貴登天下    | 獨自 <del>歲</del> 寒齊路邊  |
| 15 | 盤古留(流)側有七格 | 羅衣手中無本錢               |
| 14 | 盤王著(著)著    | 唐王著(著)焦羅              |
| 13 | 著(著)芋盤王先   | 著(著)焦羅唐               |
| 12 | 芋麻細細不成芋    | 蕉麻細細變成系               |
| 11 | 起計盤王先起計    | 初發芋麻葉大求               |
| 10 | 種得芋麻兒孫續    | 兒孫世代繡羅花衣              |
| 9  | 起計盤王先起計    | 盤王起計種芋麻               |
| 8  | 立得春一明開     | 齊                     |
| 7  | 起計盤王先起計    | 開盤王起計立春明              |
| 6  | 會使(門)得犁鉈也  | 牙                     |
| 5  | 起計盤王先起計    | 盤王起計 <del>開</del> (門) |
| 4  | 鼠王過海偷不種    | 花                     |
| 3  | 起計盤王先起計    | 盤王起計 <del>開</del> (門) |

|    |             |                        |
|----|-------------|------------------------|
| 24 | 死人共一黃泉路     | 有錢無路買長生                |
| 23 | 人生一世愛爭強     | 死人黃泉共路行                |
| 22 | 石崇出得三千客     | 同羅衣手中無本錢               |
| 21 | 石崇鐵煉金鷄卵     | 金鷄鐵煉石崇身                |
| 20 | 石崇富貴登天下     | 獨自孤寒期路頭                |
| 19 | 盤王流相有七格     | 羅衣手中無本錢                |
| 18 | 盤王著(著)芋世也好  | 唐王著(著)焦羅               |
| 17 | 著(著)芋盤王先    | 著(著)焦羅唐                |
| 16 | 抖得高(機)加一織細布 | 布面又彫楊柳花                |
| 15 | 起計盤王先起計     | 加盤王起計抖高機               |
| 14 | 芋麻細細變成芋     | 蕉成細見一繡細                |
| 13 | 起計盤王先起計     | 花                      |
| 12 | 種得芋麻兒孫續     | 初發油麻葉代求                |
| 11 | 起計盤王先起計     | 文盤王起計種芋麻               |
| 10 | 立得春一名哀      | 青                      |
| 9  | 起計盤王先起計     | 屋下秧兒段段齊                |
| 8  | 未便(犁)鉈也     | 報牙生                    |
| 7  | 起計盤王先起計     | 盤王起計 <del>開</del> (門)  |
| 6  | 鼠王過海偷不種     | 龍王含水吟不花                |
| 5  | 起計盤王先起計     | 盤王起計 <del>開</del> (門)  |
| 4  | 起計盤王先起計     | 頭盤王起計 <del>開</del> (門) |
| 3  | 起計盤王先起計     | 盤王起計 <del>開</del> (門)  |

三 人生一世莫爭秋  
二 草生一世根還在  
二五 人生一世莫爭強秋  
二六 今世有衫今世著  
二七 貧貧薄薄成人我  
二八 起屋沙州水灘過  
二九 當初富貴真富貴  
三〇 三斗碎金使會了  
三一 當初富貴真富貴  
三二 有良不如打良碗  
三三 當初富貴真富貴  
三四 有良不如打飯碗  
三五 當初富貴真富貴  
三六 銀筒載水金擔竿  
三七 當初富貴真富貴  
三八 打良做(橈)又嫌白  
三九 當初富貴真富貴  
四〇 富貴打良(擔)板過  
四一 當初富貴真富貴  
四二 貧薄愛連富貴女

羅伏能有幾個由  
人生一世斷宗由  
羅伏能有幾個難由  
莫留後世把人看收  
起屋沙州石上中進  
富貴也曾貧薄龍人  
三斗碎金又話窮貧  
富貴也曾貧薄龍人  
富貴打良做屋(樑)飯匙  
(喫)飯得聞飯氣香思  
富貴打良做飯鍋  
(喫)飯得聞飯氣生  
富貴打良換(橈)頭  
良籃洗菜掛金鉤  
富貴打良換(樑)光  
打金來換又嫌黃  
富貴打良(擔)板門長  
良杵刀梭遮妹門  
貧薄定娘話不同真  
富貴人嫌貧薄窮人

|    |           |              |    |           |              |
|----|-----------|--------------|----|-----------|--------------|
| 38 | 貧薄愛連富貴女   | 富貴又嫌貧薄人      | 21 | 人生一世莫爭秋   | 羅伏能有(已)(幾)   |
| 37 | 當初富貴真富貴   | 同貧薄定娘話不真     | 22 | 草生一世根重在   | 人生一世斷(蹤)躍    |
| 36 | 富貴打銀(擔)板過 | 門良筋陀梭遮妹門     | 23 | 秋人生一世莫爭強  | 羅伏能有(已)(幾)   |
| 35 | 當初富貴真富貴   | 門富貴打良(擔)板完   | 24 | 今世有(錢)(衫) | 莫難油          |
| 34 | 打銀來鐸又嫌白   | 打金來鐸又嫌黃      | 25 | 貧貧薄薄成人我   | 收莫留後世把人看     |
| 33 | 當初富貴真富貴   | 富貴打良鐸(樑)光    | 26 | 起屋沙州水灘過   | 起屋沙州石上中      |
| 32 | 銀桶載水金擔桿   | 金鉤(籃)洗菜掛     | 27 | 當初富貴真富貴   | 富貴又嫌卑薄龍      |
| 31 | 當初富貴真富貴   | 頭富貴打良鐸(燈)    | 28 | 有銀不如打飯碗   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 30 | 有銀不如打飯碗   | 生(喫)飯得聞飯氣思   | 29 | 當初富貴真富貴   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 29 | 當初富貴真富貴   | 富貴打銀(樑)飯匙    | 30 | 有銀不如打飯碗   | (看)富貴打銀(樑)飯匙 |
| 28 | 有銀不如打飯碗   | (看)富貴打銀(樑)飯匙 | 31 | 當初富貴真富貴   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 27 | 當初富貴真富貴   | 富貴打銀(樑)飯匙    | 32 | 三斗碎金會使了   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 26 | 起屋沙州水灘過   | 富貴又嫌卑薄龍      | 33 | 當初富貴真富貴   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 25 | 貧貧薄薄成人我   | 起屋沙州石上中      | 34 | 有銀不如打飯碗   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 24 | 今世有(錢)(衫) | 收莫留後世把人看     | 35 | 當初富貴真富貴   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 23 | 秋人生一世莫爭強  | 羅伏能有(已)(幾)   | 36 | 銀桶在(載)水金  | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 22 | 草生一世根重在   | 人生一世斷(蹤)躍    | 37 | 當初富貴真富貴   | 富貴打銀(樑)飯匙    |
| 21 | 人生一世莫爭秋   | 羅伏能有(已)(幾)   | 38 | 有銀做枕又嫌白   | 富貴打銀(樑)飯匙    |

|    |            |            |    |            |            |
|----|------------|------------|----|------------|------------|
| 42 | 貧薄又連富貴女    | 富貴又嫌貧薄窮人   | 25 | 人生一世莫爭秋    | 羅伏能有(已)(幾) |
| 41 | 富貴又共富貴話    | 貧薄如娘話不同    | 26 | 草生一世根均在    | 人生一世討風流    |
| 40 | 富貴打銀(擔)板過  | 平銀樹挑梭(鑽)妹門 | 27 | 秋人生一世莫爭強   | 羅伏能有(已)(幾) |
| 39 | 當初富貴真富貴    | 平富貴打銀(擔)板門 | 28 | 今世有(衣)(衫)今 | 莫難油        |
| 38 | 有銀做枕又嫌白    | 金有金來汗又嫌黃   | 29 | 貧貧薄薄成人我    | 收莫留後世把人看   |
| 37 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  | 30 | 起屋沙州水灘過    | 起屋沙州石上中    |
| 36 | 銀桶在(載)水金   | 銀籃洗菜掛金鉤    | 31 | 當初富貴真富貴    | 富貴又嫌卑薄龍    |
| 35 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  | 32 | 三斗碎金會使了    | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 34 | 有銀不如打飯碗    | 富貴打銀(樑)飯匙  | 33 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 33 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  | 34 | 有銀不如打飯碗    | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 32 | 三斗碎金會使了    | 富貴打銀(樑)飯匙  | 35 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 31 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  | 36 | 銀桶在(載)水金   | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 30 | 起屋沙州水灘過    | 富貴又嫌卑薄龍    | 37 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 29 | 貧貧薄薄成人我    | 起屋沙州石上中    | 38 | 有銀做枕又嫌白    | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 28 | 今世有(衣)(衫)今 | 收莫留後世把人看   | 39 | 當初富貴真富貴    | 富貴打銀(樑)飯匙  |
| 27 | 秋人生一世莫爭強   | 羅伏能有(已)(幾) | 40 | 富貴打銀(擔)板過  | 平銀樹挑梭(鑽)妹門 |
| 26 | 草生一世根均在    | 人生一世討風流    | 41 | 富貴又共富貴話    | 貧薄如娘話不同    |
| 25 | 人生一世莫爭秋    | 羅伏能有(已)(幾) | 42 | 貧薄又連富貴女    | 富貴又嫌貧薄窮人   |

四三 富 貴 人  
 四四 人家富貴般龍有  
 四五 盤王留下十二面  
 四六 出世凡人彈不得  
 四七 三百貫錢買琵琶背  
 四八 出世凡人彈不得  
 四九 琵琶 頭 名  
 五〇 出世凡人彈不得  
 五一 琵琶 頭  
 五二 琵琶 頭  
 五三 出世凡人彈不得  
 五四 琵琶搖頭  
 五五 三面作刀修囉哩  
 五六 琵琶 龍 頭  
 五七 彈頭得娘心暗意泣  
 五八 三百貫錢買琵琶  
 五九 吹笛丁家會吹笛  
 六〇 拍板原來五郎造  
 六一 拍板原來四行拍  
 六二 出世魯班多計較

人家富貴我家貧窮  
 我家貧窮百般貧窮  
 初甲琵琶十二弦名  
 拋擲下八弦彈四弦石山聽水聲  
 又添四百貫錢(絲)頭  
 玉女彈琵琶心裡愁  
 魯班(凋)挖做龍頭聲  
 推帶下石山聽水愁聲  
 魯班(凋)挖做龍頭聲  
 魯班(凋)挖做龍頭身  
 玉女彈琵琶愁入聲  
 三面作刀四面凋愁  
 不過共腸氣應消  
 琵琶彈背不彈頭腦  
 彈背得娘心裡愁容  
 又添四百古人吹連  
 吹下劉山劉嶺歸邊  
 人著爐中偷過連  
 四行拍了不收歸還錢  
 魯班劉三計較更聰明嘍囉

|         |        |         |         |         |         |          |          |             |   |   |   |          |          |         |          |         |         |         |         |
|---------|--------|---------|---------|---------|---------|----------|----------|-------------|---|---|---|----------|----------|---------|----------|---------|---------|---------|---------|
| 55      | 54     | 53      | 52      | 51      | 50      | 49       | 48       | 47          |   |   |   | 46       | 45       | 44      | 43       | 42      | 41      | 40      | 39      |
| 花巧魯班更花巧 | 抄板原來四行 | 抄板原來五郎造 | 吹笛丁家會吹笛 | 三百貫錢買把笛 | 心暗意     | 琵琶 頭     | 三面着(著)修落 | 琵琶 頭        | ナ | ナ | ナ | 出世凡人彈不得  | 琵琶 頭     | 出世凡人彈不得 | 三百貫錢買琵琶背 | 出世凡人彈不得 | 盤王(流)傳  | 人家富貴般般有 | 人家富貴仔家窮 |
| 魯班花巧更聰明 | 抄板原來四行 | 抄板原來五郎造 | 吹下劉山劉嶺歸 | 連       | 彈背得娘心裡愁 | 琵琶彈背不彈頭腦 | 不過共腸氣應消  | 三面着(著)刀四面彫聲 | ナ | ナ | ナ | 帶下石山聽水愁聲 | 魯班彫挖作龍頭聲 | 思       | 系(絲)     | 又添四百貫錢頭 | 拋下石山彈四彈 | 初甲琵琶十二弦 | 人家富貴仔家窮 |

|         |         |          |         |         |         |          |         |         |   |   |   |         |          |         |         |         |         |         |         |
|---------|---------|----------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|---|---|---|---------|----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 58      | 59      | 57       | 56      | 55      | 54      | 53       | 52      | 51      |   |   |   | 50      | 49       | 48      | 47      | 46      | 45      | 44      | 43      |
| 出世魯班多計較 | 色板原來五郎過 | 色板原來五郎造  | 吹笛丁家會吹笛 | 三百貫錢買把笛 | 彈頭彈背心暗意 | 琵琶龍      | 三面砍刀鞘落裡 | 琵琶搖     | ナ | ナ | ナ | 出世凡人彈不得 | 琵琶頭明     | 出世凡人彈不得 | 三百貫錢買把笛 | 出世凡人彈不得 | 盤王流傳十二面 | 人家富貴般般有 | 富貴娘     |
| 魯班劉三計較更 | 過吹爭     | 又着(著)爐中偷 | 吹下劉山劉嶺歸 | 又添四百古人吹 | 彈背得娘心裡愁 | 琵琶彈背不彈頭腦 | 不過共腸氣應消 | 三面砍刀四面彫 | ナ | ナ | ナ | 帶下石山聽水聲 | 魯班彫挖作龍頭聲 | 思       | 頭       | 八弦彈四邊   | 拋下石山聽水聲 | 初甲琵琶十二弦 | 人家富貴仔家貧 |

六三 大州出得花巧匠  
 六四 嘍 囉 好  
 六五 嘍囉出門不使性  
 六六 嘍囉不使大  
 六七 石頭柱大不等水

盤上牒木做音聲沙  
嚙嚙出入好防身單  
踏上州門成貴人是  
郎是真真不使多金  
田螺細小等江灘河

便把凡人孝子孫傳傳世間

不是嘍囉村對村等做閑

凡人習得在心頭邊

將來僚起回行愁連

異なる經典を対照させると欠失と加筆の実態が分かる。経文

は七言上下四句を単位としているため、この四句の中で欠矢加筆が起こつているといえる。漢字の相違は発音が同じ異なる漢字の置き換えが起こつていると想像できる。

例えば文字のうち日と月が混同されることがしばしば見受け

[illegible]

る。このことが、経文の読誦を複雑にしており、その上経典の経文によって異なる曲節が付されることで、さらに読誦詠唱を難解にしているといえる。

ミエン語を表現するときに使用される漢字は、本来の意味とは異なる意味が当てられることがある。まずは異なる地域の歌謡語における漢字と音声との対応の実態を説明することが必須であると考えられるため、今後各経典ごとの言語学的な分析を行なう必要がある〔吉川 二〇一六〕。加えて曲節の解明には、音楽学からの取り組みが必要である。

現在のところ、儀礼知識の継承は、法事の実践の中で祭司が弟子に手本を示し、弟子は五感を駆使して経文の読み方や曲節を記憶する方法がとられている。実際、趙金付祭司（一九六三年生まれ、掛三灯儀礼は一九九四年、度戒儀礼は一九九五年）は一五歳で父方の伯父趙子鳳祭司の弟子となり七、八年かけ、舞↓経典の読誦↓呪言↓罡歩・手訣・符の段階で習得したが、独立後も二〇年余師匠から指導を受け続けたという。社会の変化の中で、このように弟子として修行を積んで祭司になろうとする若者は減少し、次世代への継承は危ぶまれている。

地域ごとの経典の読誦詠唱における極めて複雑な知識の解明は、今後のミエン・ヤオ族の儀礼知識の次世代への継承にも深

くかわつており、さらに解明を進めることは、ミエン・ヤオ族にとどまらない人類の文化資源としての評価に繋がる大きな意義をもつと考える。

# 注

〔1〕 盤姓には大盤と小盤の区別があり、儀礼の供物等の点で相違が見られる。

〔2〕 四カ所に酒杯、線香立て等が配置され、開壇願・元盆願・招兵願・盤王願の各儀礼に対応するとされる。

〔3〕 二〇〇六年馮家で実施された還家願儀礼では馬元帥の神画を加え、一八種であり、貼る順番にも違いが見える〔廣田 二〇一一年 a・三二〇〕。祭司の役割に従い、持参する軸の内容も異なる。

〔4〕 吉野晃によるとミエン・ヤオ族にとって焼畑に伴う移住が、神話儀礼文書、個人的経験のレベルにも共通したものとされ、祖先以来連綿と続けられてきた「先祖伝来の営為」と認識されており、それは「単なる生業の種別だけでなく、水稻耕作などの定着農耕を営む他の民族と自らを弁別する特徴」ともなっているという。ミエン・ヤオ族のアイデンティティーは移動し続けることを核とし形成されており、当然神話にも反映され移住の経緯が示されている。これは北タイばかりでなく藍山県のミエン・ヤオ族にも同様に見られ、ミエン・ヤオ族に共通するといえる〔吉野 二〇〇一、二〇〇八〕。

〔5〕 丸山宏の聞き取り〔丸山 二〇一〇〕および今回祭場外にコピーされた評王莽牒が張り出されていることから推測できる。入口正面中央は盤王（三廟）を祀る場所とし、家の直接の先祖の祭壇は正面をさ

(6)

け、左右どちらかに寄せて作る。盤古は創世神であるとされる一方でテキストでは盤王グループに入れられ、福江廟に吸収され、盤王と混同されている。さらに祭司によれば盤古は太上老君の父であると認識されている。

竹村卓二は、盤皇願儀礼の目的を太古ヤオ族の先祖が救世主盤皇と結んだ契約を履行することにあるとする「竹村 一九八一」。吉野晃は、盤皇祭祀をユーミエンの祖先を救護した盤皇を祀る謝恩儀礼とする。掛灯はミエンの男子が通過すべき成人式であり、道教の道士叙任儀礼の形式を取るとし、功德造成の修道儀礼とする。掛灯は家先と受礼者との祖先—子孫の関係を確立する儀礼であるとする「吉野 二〇一〇、二〇一一」。張勁松は、還家願は祖先祭祀を受け継ぎ、先祖を祭ることと除災招福を行なえる祭司になるために行なう。三代続けて掛灯と還願を行なわなければ、祖先の盤王はその子孫として認めなくなるとする「張 二〇〇二」。李祥紅は、掛灯は始祖であり救世主である盤王の子孫としてその祭祀を継承すべく祭司になるために行なう。盤王祭祀は除災招福を意図していたが、後に願ほどきへと変化したとする「李 二〇一〇」。

(7)

いわゆる「盤王大歌」と総称されるミエン・ヤオ族の伝承には創世神話等の神話叙事、民族の歴史叙事、祖先にまつわる種々な伝承等が含まれている。広西・湖南の過山瑤が行なう、盤王願で歌われる「盤王大歌」は七言を主とし三六段または三二段、または二四段または一八段から構成され、さらに七任曲と称される曲調を異にする七つの歌を加えて成立するとされる。

中国湖南省藍山県匯源郷湘藍村馮家で実施された還家願儀礼で実施された時使用された「盤王大歌」(文獻B—3)は、祭司の盤保谷氏所有だが、起声唱・齊入席・隔席唱・論娘唱・日頭出・日正中・日落江・日落西・日落鳥・日頭過江・夜深深・夜黄昏・天上星・月亮亮お

よび第一紅紗曲、次に天大早・見怪歌・天暗鳥・北邊暗・洪水発・雷落地・葫蘆・伏羲・洪水盡・為婚了および第二山逢閑曲、次に造得地・置天地・唱王打水・深山竹木・唐王出世・信王出世・玉女梳頭・白涼扇・坦傘・盤王出世・石崇・富貴・琵琶頭・紗板・魯班および第三滿段曲、次に楼上伏門・大婆女・說婚早・劉山・秀才・師人・十二遊師・鳥雲生・五婆見・英台・山伯・生時・大州大・大州・老鼠・大紅・石榴生および第四葉荷葉で成立している「廣田 二〇一一 a・三六九、二〇一三 f」。

中国湖南省江華瑤族自治県で収集された乾隆年間の手抄本を整理した「盤王大歌」(中国少数民族古籍瑤族古籍之一湖南少数民族古籍弁公室主編 岳麓書社 一九八七年)には充実した内容の「盤王大歌」が収められていると考えられるが、起声唱・日出早・日正中・日斜斜・種竹木・唐王出世・盤王出世・盤王獻計・流羅子・琵琶頭・石崇富貴・歌一段・魯班造寺・梅花曲・雷落地・郎老了・彭祖歌・夜深深・大小星・月亮亮・黄条沙・天大早・天地動・天地暗・北邊暗・見大怪・相逢賢曲・造天地・万段曲・送神去・亞六曲・荷葉杯曲・桃源洞歌・四字歌・放猎狗・夜黄昏・何物歌・盤州歌・南花子曲・閩山歌・梁山伯・鄧古歌・飛江南曲から構成されている。

中国広西チワン族自治区の賀県で収集されたとされる「盤王大歌」(中国少数民族音楽古籍叢書之一盤承乾等收集整理 天津古籍出版社 一九九三年)に収められたものは、起声唱・輪娘唱・日出早・日正中・日斜斜・日落江・黄昏歌・夜深深・大星上・月亮亮・黄沙曲・天大早・見大怪・北邊暗・雷落地・葫蘆曉・洪水尽・為婚了・三逢延曲・造天地・種竹木・三更深洞・盤王出世・盤王起計・富貴竜・荷葉杯曲・梁山伯歌・南花曲・桃源洞・閩山学堂歌・造寺歌・飛江南曲・何物歌・彭祖歌・梅花曲・亞六曲で構成されている。

一九六〇年代に中国広西チワン族自治区大瑤山瑤族自治県三角公社

で収集された『盤王歌』（広西民族学院中文系民族民間文学教研究翻印一九八〇年）に収められたものは、起声唱・初入席・隔席唱・論娘唱・日出早・日正中・日斜斜・日落紅・日落西・夜黄昏・夜深深・天上星・月亮亮・天大早・見大怪・天地動・天暗烏・北邊暗・雷落地・伏羲姊妹・葫蘆・洪水発・洪水天・造天地・烏雲生・大盤計・小盤計・桃源・閩山学堂・魯班造寺・何物・鄧古・彭祖・郎老了・放猎狗・歌船・第一黄条沙・第二三峯寒・第三晚段曲・第四荷葉盆・第五南花子・第六飛江南・第七梅花で構成されている。

張勁松によれば中国湖南省藍山県村村の「盤王大歌」は、第一章は日出早・日正中・日斜斜・日落西・日落暗・夜黄昏・夜深深・天上・大星上・月亮亮的ほか、第一曲黄条沙を加えて構成され、第二章は、天大早・見大怪・天地動・天柱倒・天暗烏・北邊暗・雷落地・洪水発・洪水尽・怕不合・為婚了のほか、第二曲三逢閑を加えて構成され、第三章は、造得天・造得地・造得火・置山源・置青山・相説報・唐王出世・盤王起計・邀娘亮・白涼扇・富貴竜・琵琶竜・喽真のほか、第三曲万段曲を加えて構成され、第四章は、賜嫁早・劉岭大・烏雲生・梁山伯・大州大のほか、第四曲荷葉杯を加えて構成され、第五章は、桃源峒・閩山鳥・閩山青・入連洞・会造寺天字大・鄧鼓歌のほか、第五曲南花子を加えて構成され、第六章は、何物変・得郎变・何物輪・何物爛・何物死・彭祖生・彭祖死・郎老了のほか、第六曲飛江南を加えて構成され、第七章は、木倒地・船成了・船到水・送路去・帰去也・飲酒了・不唱了のほか、第七曲梅花相送を加えて構成されるとしている（張二〇〇二・六三・一五五）。

『瑶人経書』（鄭徳宏等編 岳麓書社 二〇〇〇年）には「還盤王愿経」が収められるが、『盤王大歌』（鄭徳広整理 湖南少数民族古籍辨公室編 岳麓書社 一九八七年）を補うものとされる。両者とも儀礼の還盤王願において、祭司によって読誦詠唱されるとされる。「還盤

王愿経」には部分的には「盤王大歌」に共通する内容が収められているが、構成は異なるので同一の目次を並べることはできない。

同じく中国湖南省江華瑶族自治县を中心に經典が収集編集された『湖南瑶族泰鎬田野調査』（李祥紅・鄭艳琼 岳麓書社 二〇一〇年）に収められた「盤王大歌」は、起声唱・初入席・隔席唱・日出早・娘担水・日正中・日正真・日落江・日斜斜・夜深深・夜黄昏・大小星・月亮亮・天上早・見大怪・天地動・葫蘆晚・天暗烏・洪水発・洪水尽・天柱倒・造天地・為婚了・劉王種竹・天子歌・唐王出世・盤王出世・大盤州・小盤州・桃源学堂・造寺歌・鄧古歌・何物歌・彭祖歌・郎老了・歌散歌・黄条沙曲・相逢閑曲・万段曲・荷葉杯曲・南花子曲・飛江南曲・梅花大碗曲・三六段七首曲で構成される。さらに同書には縮小された、白鵠・部靈聖・聖人倒・問娘・黄条沙曲・相逢賢曲・万段曲・荷葉杯曲・飛江南・梅花曲相送大王・東老尊から構成される「盤王大歌」も収められている。

中国広東省の乳源瑶族自治县の經典が収められた『乳源瑶族古籍匯編』上・下（盤才万・房先清編注 広東人民出版社 一九九七年）には「盤王大歌」の三六段七首曲の題目のみ記されているが、「承接唐王聖帝衆神書」の中に「盤王大歌」の内容と一致する内容が見える。さらに中国以外の諸機関に所蔵されている「盤王大歌」については、バイエルン州立図書館はヤオ族写本を二七六件所有し、うち八六七件が目録化されている。（Höllmann, T. O. hsg. 2004 *Handschriften der Yao Teil I Bestände der Bayerischer Staatsbibliothek München Cod. Sin. 47 bis Cod. Sin. 1045*, Stuttgart: Franz Steiner Verlag）そのうち盤王崇拜にかかわる盤王書・盤王歌をはじめとし約二〇〇件を閲覧し、「盤王大歌」の内容を確認できた。中でもCod. Sin. 200は經典の末尾には「盤王大路書」は八六篇で大清咸豐二年（一八五二年）に抄写され、李進●のものであると見える。冒頭に起声唱・夜黄昏・夜深深・

大星上・月亮亮・天上燐・見大怪・天地動・天暗鳥・雷落地・北邊暗・葫蘆曉・造天地・大盤州・小盤州・桃源洞・鄧老・何物・鄧老了・彭祖・第一黃条沙・第二三逢閑・第三万段曲・第四何葉盆・第五南花子・第六梅江南・第七梅花大碗酒と目次が記された後、起声唱から内容に移る。目次に立てられてはいないが、初入席・隔席唱・輪娘唱・日出早・日正中・日斜斜・日落西・洪水発・洪水尽・種竹・起己・鳥雲生・閭山・梁山伯・歌字・放獵狗・紅到水・送神等の内容が含まれている。

イギリスオックスフォードボドレアン図書館所蔵ヤオ族写本テキスト一四五件も閲覧したが、その中にも盤王歌を確認できた。Ox.sln.3325は、經典の末尾には『盤王大路書』は道光二八年(一八四八年)に抄写され、李文縣のものであると見える。一頁目には「置主李文縣・徵音隴西醜慶賀廟王枝書一卷」とある。各段に付された題名等を集めてみると、仰声唱・起声唱・初入席・隔席唱・輪娘唱・日頭出・日正中・日斜斜・日落西・夜黃婚・夜深深・天上星・月亮亮・第一黃条沙曲・天大燐・歌怪・天地動・天暗鳥・雷落地・北邊暗・葫蘆・洪水尽・為婚了・第二段三逢閑曲・造天地・竹木列王種・唐王出世・盤王出世・石崇・第三万段曲・歌嫁・大盤州・梁三伯・第四何葉盆曲・桃源洞・第五南花子・閭山・造寺・歌字・鄧古・第六飛江南曲・何物・鄧老・彭祖・放獵狗・家先・來時歌堂・第七梅花大碗曲から構成されている。

上記のCod.sln.200とOx.sln.3325は収集地が明らかではないが、二冊とも「盤王大歌」の内容が網羅されており、数少ない貴重な經典といえる。

南山大学人類学博物館所蔵白鳥文書のうち、九箱に収められた約一六〇件の北タイのヤオ族写本の写真コピーを閲覧したが、その中に盤王歌を確認できた〔廣田 二〇一c、二〇一三d、f〕。写真のコ

ピーは、經典ごとにまとめられておらず「盤王大歌」の内容が確認できる断片を集め順番を確定する作業をする必要がある。「七一・一二・二九李文官バレー五冊のうちの三」とメモ書きのある經典は、コピーの裏面に七四と鉛筆書きされ、表の経文は、天上星から始まり、月亮亮・第一黃条沙曲・天大早・天地動・天暗鳥・雷落地・北邊暗で、次にコピーの裏面に七五と鉛筆書きされ、表の経文は、葫蘆・洪水発・洪水尽・為婚了・第二三逢閑曲・造天地・種竹木・唐王出世・盤王出世・盤王起計・富貴・第三万段曲・色嫁早・第四何葉盆曲・鳥雲生・桃源洞で、次にコピーの裏面に七六と鉛筆書きされ、表の経文は、第五南花子・閭山・梁山・造寺・鄧古・何物・鄧老了・彭祖・放獵狗・紅到水・送神から構成されている。前半部が欠落しており網羅されているとはいえない。

さらに実際に北タイでの調査において拝見した『盤王書』と題されている書(T-20)は、冒頭部分は請聖書の内容から始まり、いくつかの種類の經典が合わせて構成されている。七言上下句の経文の中には、いわゆる盤王大歌の内容に含まれる夜深深の部分、そして何物歌の部分が含まれるが完全なものではない。

ヤオ族文化研究所メンバーが米議会図書館蔵のヤオ族写本テキストを調査し、うち四〇冊の写真撮影を行なった。そのうちのC003(96x82x)とC001(96x84x)の二冊は題名や記名もないものの上下本とみられ、盤王歌と確認できた。C003の写本は、途中から始まっているとみられるが、段に付された題名には天大早・葫蘆曉、第二三逢閑曲子、造天地、第三無萬段曲子、唐王出世があり、さらに内容が続いているC001の写本の段ごとに付された題名は、第四何葉盆曲子、劉王、第五南花子曲、桃源、閭山、何物、第六飛江南曲子、鄧老、彭祖で構成されるが、途中で終わっているようで、欠落があると考えられ、完全なものとはいえない。

ベトナム国ラオカイ省バサット県トンサイン社キコンホ集落祭司趙德貴氏所有の經典は本の表紙に題名は記されていない。表紙の次頁裏に、「丙子年正月十九日」趙德貴と書かれており、丙子是一九九六年とみられる。經典の末尾には「天運年間八十五年丙子歲六月初三依右抄成老本盤王坐席書壹卷終抄書人依右代筆完了依右抄出三十六段歌曲書留意字字不論開書主趙德貴傳流後帶(代)念用記號」とある。概要は、丙子の年六月三日に「盤王坐席書」を代筆により写本し終えた。三六段の歌書であり、持ち主は趙德貴で、後世に伝えたとする。經典の題は「盤王坐席書」と読み取ることができる。目次には、1 請出起声唱、2 初入席、3 月出早(日出早)、4 月正中(日正中)、5 月落西(日落西)、6 月落江(日落江)、7 夜深深、8 天上星、9 月亮亮、10 天大早(天大旱)、11 天暗鳥、12 北邊暗、13 雷落地、14 葫蘆熟、15 洪水發、16 洪水尽、17 置天地、18 大盤州、19 小盤州、20 小盤県、21 先起記、22 烏雲生、23 桃源洞、24 魯班造寺、25 梅山明、26 何物便(変)、27 鄧古郎老、28 第一黃条沙、29 第三伏閑、30 第三滿段、31 第四荷葉●(盃)、32 第五南●花子、33 第六五(無)江南、34 第七梅花大碗酒付とある。28、34の曲は本文の中では段にはさまれている。ラオカイ省サバ県チュンチャイ社(村)經典(V-42)は標題はないものの裏表紙に「皇上●伍拾年辛丑正月拾二日添書歌詞」とある。冒頭の目次には、起声唱、初入席、月出早(日頭出早)、月正中(日正中)、月落西/江(日落西/江)、夜深深、天上星、月亮亮、天大早(天大旱)、北邊暗、雷落地、葫蘆熟、洪水發/尽、置天地、大盤州、小盤州、先起記(先起計)、烏雲生、桃源洞、魯班造寺、梅山明何物●、鄧古郎老、歌船歌送、第一黃条沙、第二三伏閑、第三無万段(滿段)、第四何葉盃、第五南花子、第六吾江南、第七梅花大碗とある。丸括弧は經典の本文に基づき校訂した。

イエンバイ省ヴァンチャン県ナムムオイ社(村)經典(V-85)は

表紙に書主名が書かれている。内容および本文中に付された段名に基づくと、起声唱、初入席、日頭出、日正中、日落江、夜婚、夜深深、月亮亮、第一黃條沙曲、天大旱、天暗鳥、北邊暗、葫蘆、洪水發、洪水、第二三逢閑曲、造天地、第三萬段曲、唐王歌、第四段荷葉盃曲、劉王、第五段南花曲、桃源、閩山、何物、第六飛江南曲、郎老、船成了、送神去、第七段曲、日出早から構成される。

フート省タンソン県キムトゥオン社(村)經典(V-89)は標題も段名もなく、本文の内容および付された題名に基づくと、隔席唱、月頭出早、月正中、月落西、下深深、天上星、月亮亮、第一黃条沙、天大旱、雷落地、葫蘆熟、天暗鳥、北邊暗、洪水發、洪水尽、為婚了、造天地、第二相逢閑、第三段連州、第三文段曲、陀系、小遙昌上、劉三、大州、第四荷葉盃、桃元、第五南歌子、魯班、鄧浩、何物、郎老了、船成了、送神去、月出早、山茶、五旗から構成される。

#### 参考文献

##### 浅野春二

二〇一一

「バイエルン州立図書館所蔵『招魂書』に見るヤオ族の招魂儀礼について」『瑶族文化研究所通訊』第三号 ヤオ族文化研究所 一〇三—一三七頁

二〇一五

「招五穀兵について—中国湖南省瑶族(過山瑤)の還家願儀礼から—」『瑶族文化研究所通訊』第五号 ヤオ族文化研究所 五二—六三頁

二〇一六

「招兵」における五穀兵・家先兵・元宵神—中国湖南省藍山県の過山ヤオ族の事例から—『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 二二—二四六頁

##### 内海涼子

二〇一六

「ベトナムのミエン・ヤオの衣文化—ラオカイ省の事例を

中心に——『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版二  
四七—二七六頁

神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科

二〇一一

神奈川大学 歴史調査報告第二集『中国湖南省藍山県ヤ  
オ族儀礼文獻に関する報告』Ⅰ 神奈川大学大学院歴史民俗  
資料科学研究科

二〇一二

神奈川大学 歴史調査報告第一四集『中国湖南省藍山県ヤ  
オ族儀礼文獻に関する報告』Ⅱ 神奈川大学大学院歴史民俗  
資料科学研究科

二〇一四

神奈川大学 歴史調査報告第一七集『南山大学人類博物  
館所蔵上智大学西北タイ歴史文化調査団資料文獻目録』Ⅱ  
神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科

黄海・邢淑芳

二〇〇六

『盤王大歌——瑶族図騰信仰与祭祀經典研究』貴州民族宗教  
文化研究叢書 貴州人民出版社

泉水英計

二〇一一

家屋と家先単からみるヤオの家族史』『瑶族文化研究所通  
訊』第三号ヤオ族文化研究所 四六—一六〇頁

竹村卓二

一九八一

『ヤオ族の歴史と文化』弘文堂

二〇一一

『万葉集の歴史——日本人が歌によって築いた原初のヒスト  
リー』笠間書院

二〇〇七

『文学における信仰起源説と恋愛起源説』『折口信夫——東  
アジア文化と日本学の成立』笠間書院 三七〇—三七二頁

譚靜

二〇一六

『過山系瑤族（ミエン）に見る「三清神」について——中国

湖南省永州市藍山県の儀礼神画・儀礼文獻・儀礼実践から  
の考察——『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版二  
七七—三一四頁

張勁松

二〇〇二

『藍山県瑶族伝統文化田野調査』岳麓書社

鄭長天

二〇〇九

『瑶族坐歌堂的結構与功能——湖南盤瑶剛介活動研究』瑶学  
叢書 民族出版社

廣田律子

二〇〇九

『湖南省藍山県ヤオ族の還家愿儀礼の演劇性』『中国近世  
文芸論——農村祭祀から都市芸能へ——』東方書店 九九—一二  
八頁

二〇一一 a

『中国民間祭祀芸能の研究』風響社

二〇一一 b

『盤王大歌——旅する祖先——』『万葉古代学研究所年報』  
第九号 万葉古代学研究所 一六七—二一六頁

二〇一一 c

『資料紹介 文獻に見る盤王伝承』『瑶族文化研究所通訊』  
第三号ヤオ族文化研究所 六一—七四頁

二〇一一 d

『囉哩哩（ルオリレン）の詞章に関する研究』『神奈川  
大学国際常民文化研究機構年報』二 神奈川大学国際常民文  
化研究機構 二三五—二四七頁

二〇一三 a

『祭祀儀礼に見る旅——中国湖南省藍山県ヤオ族の通過儀礼  
を事例として——』『旅のはじまりと文化の生成』大学教育出  
版 二一〇—二四四頁

二〇一三 b

『構成要素から見るヤオ族の儀礼知識——湖南省藍山県過山  
系ヤオ族の度戒儀礼・還家愿儀礼を事例として——』『國學院  
中國學會報』第五八輯 國學院大學中國學會 一一—二五頁

二〇一三 c

『湖南省藍山県過山系ヤオ族の祭祀儀礼と盤王伝承』『東

- 方宗教」第二二二号 日本道教学会二〇一三年一一三頁
- 二〇一三 d 「祭祀儀礼と盤王伝承―儀礼の実施とテキスト―」『瑶族文化研究所通訊』第四号 ヤオ族文化研究所 八八―一〇六頁
- 二〇一三 e 「ヤオ族春節調査」『瑶族文化研究所通訊』第四号 ヤオ族文化研究所 一三三―一三六頁
- 二〇一三 f 「願掛け願ほどの民俗―中国福建省漢族の元宵会と湖南省ヤオ族の還家願儀礼を事例として―」『東アジア比較文化研究』第二二号 東アジア比較文化国際会議日本支部 五六一―六八頁
- 二〇一三 g 「ボードリアン図書館蔵ヤオ族テキスト盤王関連校訂用資料」『麒麟』第二二二号 神奈川大学経営学部一七世紀文学研究會 五八―六八頁
- 二〇一三 h 「湖南省藍山県勉系瑶族道教儀式調査研究―以表演性項目為中心之考察―」『地方道教儀式実地調査比較研究』国際學術検討會論文集「新文豊出版股份有限公司 二一七―三〇六頁
- 二〇一四 「儀礼知識の伝承に関する研究―身体コミュニケーションによる伝承とテキストによる伝承から―」『国際常民文化研究叢書七―アジア祭祀芸能の比較研究―』神奈川大学国際常民文化研究機構 一九九―二三〇頁
- 二〇一五 a 「湖南省藍山県ミエン・ヤオ族調査報告」『アジア研究センター年報二〇一四―二〇一五』神奈川大学アジア・レビュー 〇三 神奈川大学アジア研究センター 八二―九六頁
- 二〇一五 b 「湖南省藍山県過山系ヤオ族（ミエン）の祭祀儀礼にみる盤王の伝承とその歌唱」『歴史民俗史料学研究』第二〇号 神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科 一〇三―一四六頁
- 二〇一五 c 「儀礼における歌書の説誦―湖南省藍山県ヤオ族還家願儀礼に行なわれる歌問答―」『國學院雜誌』第二一六卷第一号 國學院大學 二二五―二五四頁
- 二〇一五 d 「湖南省藍山県過山瑶族還家願儀礼と盤王伝承及其歌唱（中文）」『民俗曲藝』第一八八期 財団法人世合鄭民俗文化基金會 一七二―二四九頁
- 二〇一六 「儀礼における歌誦―「大歌」の説誦詠唱される還家願儀礼を事例として―」『ミエン・ヤオの歌誦と儀礼』大学教育出版 一―五三頁
- 松本浩一
- 二〇一〇 「『掛三燈』の儀礼」『瑶族文化研究所通訊』第二号 ヤオ族文化研究所 六一―六頁
- 二〇一〇 「度戒儀礼に見える神々・呉越地方・台湾の民間宗教者の儀礼と比較して」『瑶族文化研究所通訊』第三号 ヤオ族文化研究所 二四―三四頁
- 丸山宏
- 二〇一〇 a 「湖南省藍山県ヤオ族伝統文化の諸相―馮榮軍氏からの聞き取り内容―」『瑶族文化研究所通訊』第二号 ヤオ族文化研究所 二二―二二頁
- 二〇一〇 b 「二〇一〇年三月バイエルン州立図書館所蔵ヤオ族写本調査報告」『瑶族文化研究所通訊』第二号 ヤオ族文化研究所 五八―五九頁
- 二〇一〇 a 「中国湖南省藍山県ヤオ族の度戒儀礼文書に関する若干の考察―男人用平度陰陽拋を中心に―」『知のユーラシア』明治書院 四〇〇―四二七頁
- 二〇一〇 b 「中国湖南省藍山県ヤオ族度戒儀礼に用いられた女人用陰陽拋―その校訂と書き下し―」『瑶族文化研究所通訊』第三

号 ヤオ族文化研究所 四一—四五頁

- 二〇一三 「湖南省藍山県勉系瑶族宗教儀式文字資料の研究価値—以度戒儀式文書為中心之探討—」『地方道教儀式実地調査比較研究』国際学術研討会論文集 新文豊出版股份有限公司 一八五—二一五頁

- 二〇一六 「ヤオ族宗教文献「意者書」から見る還家願儀礼—大庁意者の問卦と許願の部分を中心に—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 一九三—二〇頁

三村宜教

- 二〇一六 「儀礼にみるヤオ族の船—ヤオ族のもつ船のイメージ—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 三一五—三四五頁

森由利亜

- 二〇一〇 「榜文の翻刻と現代和訳の一例—約束榜—」『瑶族文化研究所通訊』第二号 ヤオ族文化研究所 二六—二八頁

ヤオ族文化研究所

- 二〇〇九 「瑶族文化研究所通訊 第一号 ヤオ族文化研究所」  
二〇一〇 a 「瑶族文化研究所通訊 第二号 ヤオ族文化研究所」  
二〇一〇 b 「ヤオ族伝統文献研究国際シンポジウム予稿集」ヤオ族文化研究所  
二〇一一 「瑶族文化研究所通訊 第三号 ヤオ族文化研究所」  
二〇一二 「第二回国際瑶族伝統文化研討会—資源と創意—會議論集」ヤオ族文化研究所  
二〇一三 「瑶族文化研究所通訊 第四号 ヤオ族文化研究所」  
二〇一五 a 「瑶族文化研究所通訊 第五号 ヤオ族文化研究所」  
二〇一五 b 「国際シンポジウム“瑶族の歌謡と儀礼”予稿集」ヤオ族文化研究所

山本直子

- 二〇〇六 「古代歌謡の対句と祭式儀礼」『同志社国文学』第六号 同志社大学国文学会 一一〇頁

吉川雅之

- 二〇一六 「『大歌書』上冊記音—ミエン語（勉語）藍山匯源方言による—」『ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 七三—一九二頁

吉野晃

- 二〇〇一 塚田誠之編「中国からタイへ—焼畑耕作民ミエン・ヤオ族の移住—」『流動する民族—中国南部の移住とエスニティ—』平凡社 三三三—三五三頁  
二〇〇八 塚田誠之編「槃瓠神話の創造?—タイ北部のユーミエン（ヤオ）におけるエスニック・シンボルの生成—」『民族表象のポリテクス—中国南部における人類学・歴史学的研究—』風響社 二九九—三二五頁  
二〇一〇 a 「タイ北部におけるユーミエン（ヤオ）の儀礼体系と文化復興運動」『東アジアにおける宗教文化の再構築』風響社 二七三—二九九頁  
二〇一〇 b 「ユーミエンの儀礼の研究における課題—儀礼の意味と伝承、不易と変差」『瑶族文化研究所通訊』第二号 ヤオ族文化研究所 一七—一八頁  
二〇一〇 c 「ユーミエン（ヤオ）の国境を越えた分布と社会的文化的変差」塚田誠之（編）『中国国境地域の移動と交流—近現代中国の南と北—』有志舎 二三七—二五八頁  
二〇一一 「〈掛三台燈〉の構造と変差—タイ、ラオス、中国湖南省藍山県のユーミエンにおける〈掛燈〉の比較研究」『瑶族文化研究所通訊』第三号 ヤオ族文化研究所 三五—四〇頁

- 二〇一二 「タイ北部、ユーミエン（ヤオ）の船送り」『国際シンポジウム報告書Ⅲ。カラダが語る人類文化—形質から文化まで—』国際常民文化研究機構 一四—一四七頁
- 二〇一三 a 「ユーミエンにおける〈家先〉祭祀—タイと藍山県との〈家先単〉の比較—」『瑶族文化研究所通訊』第四号 ヤオ族文化研究所 八二—八七頁
- 二〇一三 b 「廟と女性—シャマン—タイ北部、ユーミエン（ヤオ）の新たな宗教現象に関する調査の中間報告」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系Ⅱ』第六四巻 東京学芸大学学術情報委員会 一一五—一二三頁
- 二〇一四 a 「タイ北部ユーミエンの儀礼における女性と歌謡」『国際常民文化研究叢書』七 国際常民文化研究機構 一四—一五五頁
- 二〇一四 b 「タイ北部、ユーミエンにおける儀礼文献の資源としての利用と操作」塚田誠之（編著）『中国の民族文化資源—南部地域の現在および分析』風響社 六七—九五頁
- 二〇一四 c 「タイにおけるユーミエンの家族構成の社会史—合同家族から核家族へ—」クリスチャン・タニエルズ（編著）『東南アジア大陸部 山地民の歴史と文化』言叢社 二一九—二四六頁
- 二〇一五 a 「歌と儀礼の越境—タイ北部、ミエン社会における〈歌〉と〈設鬼〉のカテゴリ—間の越境現象について—」吉野晃（編）『越境の動態的地域研究—空間とカテゴリ—の越境の地域間比較をめざして—』研究代表者 吉野晃 東京学芸大学教育学部人文科学講座地域研究分野 三七—四三頁
- 二〇一五 b 「〈歌〉の詠唱法と儀礼への応用—タイ北部、ユーミエン（ヤオ）社会における新たな宗教現象に関する中間報告三
- 李梓紅等  
二〇一〇  
二〇一四
- 『湖南瑶族奏鑑田野調査』岳麓書社  
『湖南瑶族抖篩田野調査』岳麓書社
- 日本文化人類学会第四九回研究大会 二〇一五年五月三〇日 国際交流センター（於大阪府）『発表要旨集』七〇頁
- 二〇一六  
『タイ北部のミエンにおける歌と歌謡語—「歌二娘古」発音と注釈—』ミエン・ヤオの歌謡と儀礼』大学教育出版 五五—七一頁